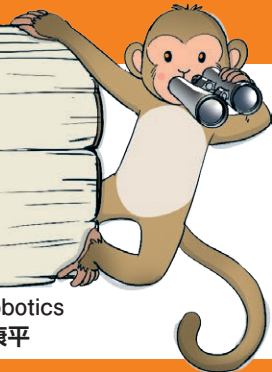


今どき

ベンチャー企業探訪



新連載
1社目

得意技「Web APIから電子回路を制御」

株式会社CambrianRobotics
佐藤 雄紀, 木戸 康平

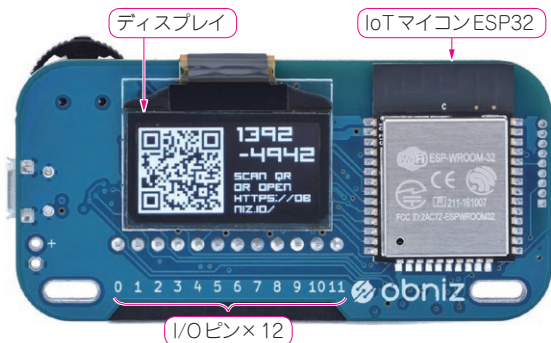


写真1 ソフトウェア技術者がインターネット越しに動かすフリスク・サイズのマイコン・ボード「obniz」

目指していること

株式会社CambrianRoboticsは電子回路をAPIで操作可能にするクラウド・サービスと、それと連携する専用回路obniz(写真1)の製造・販売を行っています。

「したいと思ったことができる世の中に」というスローガンのもと、プロ・アマを問わずテクノロジーの力で「こんなことができるものを作りたい」と誰かが思ったときに、それを容易にできるようにするというのが筆者らのミッションです。

obnizの実現には電子回路はもとよりその上のソフトウェアやクラウドとの通信、クラウド側のソフトウェア、フロントエンドのSDKなど多岐にわたる技術が必要なのですが、これらを全て自社で開発し提供しています。サービス開始後から多くの方の支援を得

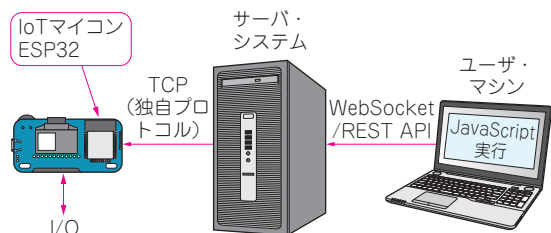


図1 obnizはクラウド経由で電子回路を動かせる

て、ユーザが作ったライブラリが出てきたり、ユーザ・グループができていたりしています。

起業のきっかけ

「作るを簡単に」という理念のもと、特に難易度の高い電子回路に注目していました。「電子回路がAPI化されていてインターネットから規格化された状態で使えるようになっていけば、ソフトウェア・エンジニアでさえも触れて、しかもIoT化も同時にできてしまうのではないか」というアイデアがきっかけでこの会社を設立しました。

設立当時は理想に合うチップがなく、受託開発などでしのいでいたのですが、2016年に登場したESP32 (Espressif Systems) というマイコンにより実現できることが分かり、開発を再開しました。クラウド・ファンディングのkickstarterでの成功を経て、2018年5月からobnizはサービスを開始しています。

実は、今回で起業は2度目となります。大学時代に出会った木戸とiPhoneアプリケーション開発を始めたのですが、さらにもう1人とで中心になって作成したのがpapelookという画像加工アプリケーションで、2000万DLを超え、アップルの今年のアプリ100にも選ばれました。今回は木戸と再びの起業となります。

Web APIから制御する電子回路 obnizの特徴

● その1…クラウド上のプログラムを動かす

obnizのボードはフリスクとほぼ同じで手の中に収まるサイズになっています。電源はMicro-USBで、給電すると起動し、Wi-Fiの接続設定となります。ディスプレイに表示される指示に従って本体上のスイッチを使ってSSIDの選択とパスワード入力を行うことでWi-Fiに接続します。

obnizはインターネットにつながるマイコン・ボードではなく、インターネットから使えるマイコン・ボードです。obniz自体にプログラムを書き込むことはできません。購入した時点でクラウドにつながるためのプログラムと鍵が入っており、Wi-Fiに接続するとクラウドに接続するようになっています。

ユーザはクラウドに対して操作したいobnizと操作